

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2025年10月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2025年10月15日～10月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 130社
- 回収率 65.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の10月の状況を見ると業況DIは、前月より4.4ポイント悪化の▲25.3となった。

2017年9月以来98ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲26.1、当月と比べ0.8ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2025年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 2025年11月～ 2026年1月
業況	▲17.3	▲11.7	▲18.2	▲19.8	▲20.9	▲25.3	▲26.1
売上	0.8	7.1	▲3.7	▲6.6	▲6.7	▲10.0	▲10.0
採算	▲18.8	▲11.0	▲16.1	▲20.6	▲21.6	▲26.9	▲23.9
仕入単価	▲56.4	▲56.3	▲58.4	▲52.9	▲60.5	▲58.4	▲48.4
販売単価	24.1	30.4	28.5	19.1	21.7	23.9	19.3
従業員	33.8	32.1	29.9	28.6	33.6	35.4	37.0
資金繰り	▲11.3	▲9.4	▲10.9	▲15.5	▲8.9	▲14.6	▲16.2

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2025年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 2025年11月～ 2026年1月
建設	▲21.2	▲10.3	▲19.3	▲23.4	▲24.1	▲35.5	▲29.1
製造	▲24.2	▲10.0	▲23.4	▲19.3	▲23.3	▲23.4	▲30.0
卸売	▲7.4	▲7.4	▲15.7	▲15.4	▲16.7	▲17.9	▲17.9
小売	▲36.8	▲38.9	▲35.0	▲40.0	▲44.4	▲41.2	▲35.3
サービス	0.0	0.0	0.0	▲6.9	▲3.7	▲12.5	▲20.9

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> 旭川管内の建設業において工事受注量は増加傾向であるが、管外業者の参入により受注競争が激化し、落札価格が低下傾向にある。加えて資機材価格の高騰及び下請施工費の高騰により利益率は低下している。（総合工事） 資材や燃料の高騰、労務費の上昇、人手不足が重なり、採算確保が一段と難しくなっている。特に現場力を支える技能者の高齢化が進む中で担い手確保と価格転嫁の両立が大きな課題。新しい政権には、地域経済を支える中小企業への支援や、建設現場の生産性の向上・人材確保に直結する施策の実行を強く望む。（設備・その他） 現状の業況は平年並みに推移しているが、年度後半の受注が少なく通期では減収の見込みである。受注獲得が最大の課題であるが、ウエートの大きい OB 客からの紹介獲得のため、今後は適切なアプローチ策と特典などの仕組み作りに取り組み窮地を打開していく方針である。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> 売上は順調に推移しており、値上げ効果もあり採算も好転。向こう 3 カ月は最賃の引上げ仕入単価の不透明感もあり対策が必要。（食料品） 売上に関しては大きな変化はないが、原材料、資材の値上げもあり、今後更なる販売価格の変更が迫っている。（食料品） 今月に入って来年の引き合いが昨年より増えている。（金属窯業他） 機械故障による修理コスト増。従業員体調不良による生産への影響。（家具・木材）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> 物価高の影響で消費の冷え込みが依然として続いている。また、為替の影響でこの先まだ値上げがありそうで、売れ行きは厳しくなりそうである。（繊維・衣服等） 気温の下降、雪などにより外出が減るなど季節的な要因により売上の減少が見られる。（食料品） 販売単価は上昇しているが、利益確保には販売個数を増やしていかなければいけない。（機械鋼材等） 当月の業況は、前年同期に比べ売上は若干下回る数字で推移。年末に向けて決算見通しを精査しているところであるが、売上は年初に策定した販売計画を若干下回る数字で着地するものとみる。例年この時期は、来年の予約販売について推進しているが、一部の地区においては他社との競合があり苦戦が強いとされている。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> 10 月初旬から中旬まで気温が高く、来店客数はかなり厳しい状況であったが、20 日以降急に気温が一桁になり、冬モードに入った。まだ来店客数は少ないが防寒アウターが動き出すと売上が高くなるタイミングとなるため、店内レイアウトをしっかりと行い、売り逃しのないよう尽力する。（衣服身回品） 10 月前半は 3 連休や好天に加え、インバウンド需要の継続もあり、週末を中心に一定の集客を確保。特に訪日外国人観光客や道外観光客の利用が目立った。一方、平日は地元客の来店が減少傾向にあり、客の偏りが顕著。平日昼間の集客をどう確保していくかが今後の課題。（食料品） 依然として仕入単価の上昇や営業費（特に人件費・設備投資）の増加により、採算は厳しい状況が続いている。年度末にかけて新型車の発売を予定しているため、売上を伸ばすことでこの状況を打破したい。（自動車） 最低賃金上昇分の販売単価への転嫁が遅れている。政治の混乱によりガソリン暫定税率廃止や円安などによる仕入価格変動の先行きに不透明感がある。（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 人件費増加。材料費増加については販売単価上昇でカバーできているが、冬に向けてエネルギー価格の補助が無いので収益に大きく影響がある。（ホテル・旅館） 売上は前年比で微増となっているが、資材の仕入れ価格の上昇と人件費の増加で採算は前年並み。向こう 3 カ月も同様の傾向が見込まれる。需要は増加傾向であるため、生産能力の拡大を図ろうにも建設費の高止まりや設備機械の価格が上昇しているため、設備投資に踏み切るのは困難である。（その他） 冬期の多客期を迎えるが、人手不足と安全対策、設備更新費用、老朽設備の修繕補修などキャッシュインよりもキャッシュアウトが懸念される。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI0.9 ポイント改善、採算 DI1.8 ポイント改善、仕入単価 DI7.7 ポイント改善、販売単価 DI1.3 ポイント悪化、資金 DI2.3 ポイント悪化、従業員 DI3.6 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 11.4 ポイント悪化となった。業種別では、総合工事 2 ポイント、設備・その他 8 ポイント、建築業 27 ポイント悪化となった。公共施設の運営管理をしているが、土日、祝日、盆の休みがなく、社員のローテーションづくりに苦労しているとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI17.1 ポイント悪化、採算 DI6.6 ポイント悪化、仕入単価 DI10.0 ポイント悪化、販売単価 DI6.7 ポイント改善、資金 DI16.6 ポイント悪化、従業員 DI3.3 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 0.1 ポイント悪化となった。業種別では、金属窯業他 11 ポイント改善、食料品、印刷・出版横ばい、家具・木材 11 ポイント悪化となった。最低賃金増により人件費の増加。社会保険料負担増との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI18.3 ポイント悪化、採算 DI8.4 ポイント悪化、仕入単価 DI2.9 ポイント改善、販売単価 DI4.6 ポイント悪化、資金 DI3.7 ポイント悪化、従業員 DI1.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 1.2 ポイント悪化となった。業種別では、繊維・衣服等 26 ポイント改善、その他横ばい、食料品 14 ポイント、機械鋼材 21 ポイント悪化となった。灯油の仕入価格は、小幅に上下しているが、販売価格は現行の価格を維持との声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI27.4 ポイント改善、採算 DI8.5 ポイント悪化、仕入単価 DI9.8 ポイント悪化、販売単価 DI24.2 ポイント改善、資金 DI4.6 ポイント改善、従業員 DI7.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 3.2 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、その他 10 ポイント悪化、衣料品、食料品横ばい、自動車 25 ポイント改善となった。前年、競合店出店の影響の反動で増収傾向。客数増だが買上点数は節約志向のため減少。新内閣の経済政策に期待したいとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI5.1 ポイント改善、採算 DI4.6 ポイント悪化、仕入単価 DI15.8 ポイント改善、販売単価 DI6.5 ポイント悪化、資金 DI5.1 ポイント悪化、従業員 DI9.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 8.8 ポイント悪化となった。業種別では、運送 25 ポイント改善、理美容・クリーニング、その他、整備業横ばい、ホテル・旅館 40 ポイント、飲食 25 ポイント悪化となった。今後、定年退職者の増加が見込まれる中で、中途採用や新卒採用による人員補充が追いつかず、人材不足に陥ることが懸念されるとの声も寄せられている。</p>